

令和の里海づくりモデル事業

取組	大阪湾奥部における生き物と触れ合える場の創出と利活用の推進
概要	港湾エリアにある未利用の干潟（浅場）及び水族館に隣接する護岸を対象に、多様な主体と連携し、生物の生息空間の創出や、連携体制の構築、広報ツールの制作などによる取組の情報発信を行い、府民・企業等による大阪湾奥部の里海づくりを拡大することをめざす。
背景	
地域資源	<p>【自然】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪湾奥部は、埋め立て地の造成等が多く、自然の藻場・干潟等はほとんどない状況。 <p>【アクティビティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨海部には、夢洲海浜や大阪港ダイヤモンドポイント、大浜公園、海とのふれあい広場などが整備され、憩いの場として活用されている（散歩、夕日、釣り、バーベキュー、ドッグラン等）
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> 万博会場が面する大阪湾奥部は、港湾エリアとして整備され、物流や産業の拠点として、高度に利用されているが、海の生物と触れ合える場がほとんどないため、府民や企業等による大阪湾の里海づくりへの参加がほとんど行われていない。

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

<p>【保全】</p> <p>①堺泉北港南泊地</p> <ul style="list-style-type: none"> 港湾エリアにある自然に堆積した未利用の干潟（浅場）の利用のため、アサリ等の隠れ家創出や、底生生物の生息場所を創出する。 <p>②大阪港天保山周辺</p> <ul style="list-style-type: none"> 水族館（海遊館）に隣接する直立護岸に底生生物や魚類等の生物生息空間を創出する。 <p>【活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「湾奥部における干潟の再生（砂泥が堆積している未利用海域を活用した生き物のオアシスづくり）」に加え、人が容易にアクセス可能で情報発信の拠点となる「海遊館及び隣接する護岸（大阪港天保山周辺）」を活用し、多様な主体による大阪湾の環境保全活動を促進するための仕組みづくり（スタートアップ）に取り組む。 <p>①堺泉北港南泊地</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学や民間団体と連携した里海づくりの実践の場としての活用。 <p>②大阪港天保山周辺</p> <ul style="list-style-type: none"> 海遊館の来館者を対象とした大阪湾の体験イベントの場として活用。 <p>【好循環形成・促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海に親しめる場がほとんどない大阪湾奥部で、生き物と触れ合える拠点を整備し、大学生の里海づくり体験や、水族館での体験イベント、情報発信の場等として持続的に利活用し、大阪湾の里海づくりへの参加を促進することで大阪湾における環境保全活動をさらに活性化する。

令和の里海づくりモデル事業での取組

取組	大阪湾奥部における生き物と触れ合える場の創出と利活用の推進
主な実施内容	<p>【令和5(2023)年度】</p> <p>①堺泉北港南泊地における里海づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 里海づくりに向けた拠点形成(大学連携による潮だまりや網袋設置等) 生物生息環境の調査の実施 環境改善技術や連携体制の構築・将来像の検討 <p>②大阪港天保山周辺における里海づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物生息空間の創出(高校連携による仕掛けなどの設置) プロモーション・普及啓発で活用する動画等の制作 簡易仕掛けの効果や連携体制、水族館の来場者と大阪湾をどう繋げるかなどの検討
成果	<p>①堺泉北港南泊地における里海づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪公立大学等と連携した潮だまりや網袋の設置により、ヤドカリ・カニなどの甲殻類やアサリの育成につながるなど生き物の生息場として機能。 大学と連携したワークショップの開催により、本フィールドの今後の活用展開について議論され、将来像が完成。 <p>②大阪港天保山周辺における里海づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 海遊館周辺の護岸に、中・高校生が発案した仕掛けの設置により、タケノコメバル、イシガニ、フジツボ、ホヤやウミウシなどが確認され、生物生息場として機能。仕掛けの形状により定着する生物の傾向が異なることも確認されている。 中学・高校と地域水族館との連携した環境学習を通じて、大阪湾に豊かな生き物が生息していることへの理解促進。 一般向けに、里海づくりのパネルや動画等を制作し、海遊館にて展示。
今後の課題・展望	<ul style="list-style-type: none"> 堺泉北港南泊地では、民間企業の隣接護岸で活動しているため、アクセス性に課題である。 海遊館周辺で仕掛けを設置した護岸は、少し歩いた場所にあり、海遊館にくる多くの来場者の方に直接見てもらう機会が少ない。今後は、天保山周辺護岸の水中の状況や得られた生物の展示等より身近に感じられる展示手法を検討。



①堺泉北港南泊地における里海づくり

(左：仕掛け周辺で確認したアサリ、右：潮だまり設置の様子)



②大阪港天保山周辺（海遊館）における里海づくり

(左上・右上：仕掛け設置・設置した仕掛けの生物採取・観察
左下：水中ドローンで撮影した仕掛け 右下：里海づくりの動画概要)